

### 赦しについての教え

(マタイ 18・21〜22)

#### 一、マタイの福音書 18章

18章は、主が教会について語られたことがまとめられているようです。たとえば、18章17節です。〈それでもなお、言うことを聞き入れないなら、教会に伝えなさい。教会の言うことさえも聞き入れないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。〉と「教会」が出てまいります。語ったのは、主イエスキリストです。

こんなことを申しますと、聖書をよく読んでいる方なら考えることでありましょう。「ちよっと待ってください。教会が誕生したのは、主イエスが十字架にかかれて死に、墓に葬られ、三日目に全能なる神によって死者の中から復活させられ、四十日にわたって弟子たちに現れ、天に引き上げられ、十日後に聖霊が降った時ですよ。主イエスのご在世当時、教会はまだありませんでしたよね。ならば、主イエスが『教会』と言われたのは、どっぴうことですか」と。確かにそのとおりです。主イエスがご在世当時、教会はまだありませんでした。しかも、「教会」と訳された言葉は、ギリシア語の「呼び集められた群れ」を意味する「エクレースィア」でした。

主イエスが語られた言葉はヘブライ語かアラム語でした。たぶん、ヘブライ語です。ヘブライ語では「イスラエルの人々の集り」(カハール)という言葉はありますが、「教会」を意味する言葉はありませんでした。

一つの可能性として考えられるのは、主イエスが「教会」の誕生を見越して「イスラエルの人々の集まり」を意味する言葉を語られ、後に教会が、「主イエスは教会について語られたのだ」と気づいたことです。

#### 二、赦しについての教え

21節をご覧ください。〈そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。〉と、ペテロは主イエスに聞きました。ペテロが語った〈罪を犯した〉人とは、だれでしょうか。〈兄弟〉です。兄弟とは、教会に属する兄弟姉妹のことです。すなわち、教会員です。教会は主に贖われた群れ、すなわち主に買い取られて神のものとされた群れです。そういう意味では、教会は「聖なる者とされた人々」です。しかし、教会の中にも問題は起きます。それは、私たち一人ひとりが聖人になるのではなく、罪赦されたものと罪人だからです。

ペテロは〈兄弟が私に対して罪を犯した場合〉と語りました。人はとかく、

周囲の者が自分に対して行った悪事に對して過敏です。そして、いつまでも根に持ちます。一方で、自分が行った悪事に関して相手がいつまでもこだわっている、「あいつはいつまでもこだわっている」として、逆ギレしてしまうこともある存在です。

さて、ペテロは語っています。〈兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。〉と。このペテロの言葉からは「私もけっこういけるでしょ」という思いが伝わってくるような気がします。ひよっとするとペテロは、イエスさまから「そのとおりである」と語られ、ほめられることを期待していたかも知れません。ところが、主は語られました。22節です。〈イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。〉と。すなわち、何回でも赦しなさいと語られました。

#### 三、赦しについて考える

なぜ主イエスは、このようなことを語られたのでしょうか。すなわち神は、赦しについて、どのように教えられたのでしょうか。私はこう思います。人をさばくことができるのは神だけである。もちろん、法に抵触してしまった場合は法に則って裁かれますが、そのような裁きは神の前には小さなものです。私たちが人を赦すのは神の御意思で

す。当然自分のことも赦さなければなりません。場合によっては、こちらがむずかしいかもしれませんが、自分が犯してしまった過ちをいつまでも赦すことができない場合、「私の罪は赦されまし」と言い聞かせることが必要です。結局のところ、人に対してであれ、自分に対してであれ、赦すのは神の知恵です。もちろん、償いはしなければなりません。そのような悔いた心を主は喜ばれます。

私は、特別な人が罪を犯すのではなく、自分も含めてすべての信仰者が罪を犯す可能性があるを受け止めています。箴言に〈28・21人を偏り見るのは良くない。人は一切れのパンで背く。〉とありますが、人間とはそういう存在であると思うからです。ですから、あまり厳しい目で教会員を見、自分を見ることには賛成できません。むしろ、神に愛されていることを知り、神を愛する信仰生活をたいせつにしたら良いと受け止めています。せっかく神がくださった人生ですから、罪を避けるのは当然のこと、人生を楽しみ、良い思い出をたくさんつくっていただきたいです。神はイエス・キリストの御業によって、すべての人を救おうとされています。人に対しては、愛と赦しだけで十分です。人をさばくのは神がなさること。人を赦すのは私共がなすことであり、神がなさることです。